



連合鳥取 社会連帯活動の取り組み <2024 年度>



平和運動の推進

1. 世界の恒久平和の実現のため、戦争の実相を将来に継承する取り組みを進めるとともに、
①在日米軍基地の整理・縮小と日米地位協定の抜本的見直し、②核兵器廃絶と被爆者支援、
③北方領土返還と日ロ平和条約の締結に向けて、連合本部と連携し推進する。
また、6～9月の連合平和行動月間における、沖縄（6月）、広島・長崎（8月）、根室（9月）での平和四行動に参加する。
竹島の領土権確立の早期解決については、連合中国ブロック連絡会と連携し運動を進めていく。
2. 連合鳥取ピースウォークを実施する。
3. 平和に関する現地研修会を開催する。

◇連合本部4つの平和運動「沖縄」「広島」「長崎」「根室」

| 平和行動 | 日 程 | 内 容 | 参加要請 |
|------|---------------------|---|-------|
| 沖 縄 | 6月23日（日） ～24日（月） | 1日目：2024 平和林竹集会 平和交流会 2日目：ピース・フィールドワーク | 5人程度 |
| 広 島 | 8月5日（月） ～6日（火） | 1日目：ピースウォーク 2024 平和ヒロシマ大会 2日目：～フリー行動 | 20人程度 |
| 長 崎 | 8月8日（木） ～9日（金） | 1日目：2024 平和ナガサキ大会 2日目：ピースウォーク | 5人程度 |
| 根 室 | 9月7日（土） ～8日（日） | 1日目：学習会「北方四島の現状、島への思い（語り部）等」 2日目：2024 平和ノサップ集会 | 3人程度 |

◇連合鳥取ピースウォーク

- 開催日 7月下旬から8月上旬を基本とし実施。
- 場 所 東部、中部、西部 中央会場：西部
- 内 容 ・デモ行進 ⇒ 各地区とも実施。 ・内容 ⇒ 各地協で企画。

◇竹島の領土権確立に関する取り組み

- 連合中国ブロックと連携し取り組む。具体的には、島根県・竹島の日（2月22日）の集會に参画する。

◇連合連帯活動局と連携し推進する課題

- ① 核兵器廃絶
- ② 在日米軍基地の整理縮小
- ③ 日米地位協定の抜本的見直し
- ④ 安全保障関連法案
- ⑤ 北方領土返還要求運動
- ⑥ 平和問題での緊急行動 等

◇平和学習に関する現地学習会

- 開催日 2024年5月中旬（検討中）
- 場所 検討中
- 対象 連合鳥取執行委員

【2023年度学習会】
知覧特攻平和会館他視察



メーデー大会

メーデーの原点を再認識し、労働者の地位や労働条件の向上、人権・労働基本権の確立、民主主義の発展、恒久平和の希求に深く貢献していくことをめざす。

【基本方針】

これまでの基本的考え方を踏襲しつつ、すべての働く仲間が結集して力をあわせて、4点を方針とする。

- ① 「底上げ」「底支え」「格差是正」の流れを継続するとともに、働く側の視点による働き方改革を進め、長時間労働を是正し、誰もが公正な労働条件のもとでいきいきと働き、社会に参画できる「働くことを軸とする安心社会」の実現をめざす。
- ② 働く仲間が結集するメーデーの持つ発信力を活かし、共感の輪を広げ、社会的うねりを呼び起こし、地域社会にアピールする運動を展開していく。
- ③ 労働福祉団体や NGO・NPO をはじめとする諸団体との連携を強化することはもとより、社会を支えるすべての人たちとの絆（つながり）を広め、労働運動に求められる社会運動の軸としての役割を発揮するための契機とする。
- ④ 東日本大震災をはじめとする被災地の復興支援、ならびに教訓を風化させない取り組みを展開する。

◇第95回鳥取県メーデー大会

メーデーとは

—8時間は労働、8時間は休息、
そして残り8時間は自分たちの自由な時間のために—

労働者の祭典。

労働者が団結して権利を要求する日であり、世界的に毎年5月1日が「メーデー」とされている。メーデーのきっかけとなったのは、1886年5月1日、アメリカの合衆国カナダ職能労働組合連盟（後のアメリカ労働総同盟）が8時間労働制を要求して行ったストライキ。当時の労働者は、低賃金で1日12時間以上働かされるなど、過酷な生活を強いられており、これを改善するために労働者自らが立ち上がった。

3年後にパリで開かれた第2インターナショナル創立大会で、8時間労働制実現のデモを行うことが決議され、さらに5月1日を労働運動の日を設定した。これ以降、メーデーは国際社会に広がることとなった。

日本で初めてメーデーが行われたのは、1920年、東京・上野公園。

集まったおよそ5000人とともに1万人ともいわれる労働者らが、8時間労働制や最低賃金法の制定などを訴えた。しかし、1936年の2.26事件からメーデーは禁止され、太平洋戦争が終わる45年までメーデーが開催されることはなかった。

だが、終戦と同時に復活。戦後初めての1946年メーデーでは、「働けるだけ喰（く）わせろ」がスローガンに掲げられ、盛大に開催された。以降、5月1日を中心に毎年開催されている。

- 開催日 2024年4月27日(土)
- 中央メーデー会場 東部地区 ※中部地域、西部地域も同日開催
- 企画・運営
 - ・第95回メーデー鳥取県実行委員会、中央メーデー大会準備委員会を設置し企画運営する。
- メーデーのあり方について
 - ・各地協の企画立案においては、下記事項を考慮する。
 - ①メーデー精神・意義を継承 ②開催場所 ③式典内容 ④イベント内容
 - ⑤デモ行進 ⑥メーデー献血 ⑦社会貢献活動

第94回(2023年)メーデー大会

中央メーデー大会(中部)



東部地域メーデー大会



西部地域メーデー大会



人権課題の取り組み

◇人権活動の強化(連合7つの絆/差別撤廃・拉致問題)

- 部落解放共闘会議へ参画する中で、あらゆる差別撤廃に向けて運動を積極的に推進していく。
- 北朝鮮による日本人拉致事件について
 - 連合本部「7つの絆」、人権を守るという観点から、「北朝鮮拉致問題」として、拉致問題の早期解決に向け具体的な活動に取り組んでいく。また、拉致被害者の早期解放に向けての取り組み「人権フォーラム(仮称)」等、世論喚起や学習会など、UAゼンセンの活動と連携した取り組みを行う。

◇連合エコライフ <HP><https://www.jtuc-rengo.or.jp/activity/kurashi/kankyau/>

連合の方針に沿って「地球温暖化対策行動月間」を冬季・夏季に設定し、組合事務所、職場、家庭でできる取り組みを引き続き行う。また電力需給対策で求められる夏冬の節電行動と自らのライフスタイルの見直しを促す「ピークカットアクション」を展開する。

なお、「連合エコライフ」の取り組みを、機関紙、ホームページを活用し広報・宣伝を行い地球環境問題に関する労働組合の取り組みを発信する。

■冬季行動期間（12月～3月）の取り組み

- ・室内温度 20℃設定、「ウォームビズ」運動

■夏季行動期間（5月～10月）の取り組み

- ・室内温度 28℃設定、ノーネクタイ・ノー上着を推進する「クールビズ」運動（7月～8月は強化月間）
- ・「環境家計簿」等の取り組み



「室内温度 20℃および 28℃設定」とは、暖房・冷房の温度をそれぞれ 20℃、28℃に設定するという意味ではなく、オフィスの執務スペースに温度計を置いて計測した際に、OA 機器等から放出される熱等を考慮し 20℃、28℃を示すようにするという意味。

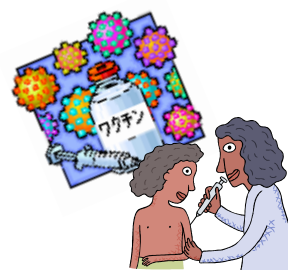
■通年の取り組み

- ・「レジ袋削減＝マイバック利用」運動
- ・エコキャップ回収運動の推進



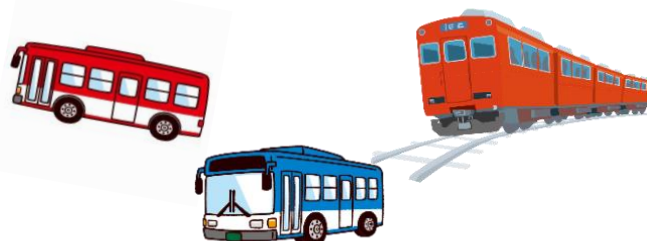
【エコキャップ回収にあたってのお願い】

※キャップの洗浄とシール剥がしをお願いします。



◇エコドライブの実践

- ガソリン消費量の削減に向けた取り組みを推進する。
- 可能な範囲で自家用車利用を控え、公共交通機関の利用促進、自転車、徒歩等による「ノーマイカー通勤」を推進する。
（目標：2回以上/月）
- 連合鳥取執行委員会の際は「公共交通利用して出席」を呼びかける。



◇自然環境保全の取り組み

■連合の森づくり（大山「ブナ林」復元運動の取り組み：西部地協主体）

昨年度に引き続き「大山ブナを育成する会」を支援連携して活動を進めるとともに、県連合としての支援体制を継続する。

また、引き続き、「大山ブナを育成する会」地づくり作業に協力する。加えて、今後の活動のあり方について関係機関と協議を進める。



■鳥取大砂丘ボランティア除草の取り組み（東部地協）

■北条砂丘清掃活動の取り組み（中部地協）

■列島クリーンキャンペーン（青年委員会）

大規模災害対策の取り組み

◇自然災害発生時の対応

(1) 災害が発生した場合には、「連合鳥取防災マニュアル・緊急対応の基本」に則って対応する。

(2) 上記マニュアル内容の共有化（マニュアルの再確認）に取り組む。

(3) 防災学習会の開催

■開催日(案) 2024年9月頃（検討中）

■開催地(案) 検討中（平和学習と並行して開催を検討する）

■対象 連合鳥取執行委員

(4) 大規模な災害時に4つの地方連合会（鳥取・島根・高知・徳島）が相互に助け合い、応援できるよう協議を進め、4県における危機事象発生時相互応援協定（2017年9月20日締結）に沿って対応する。今後、鳥取県・島根県・高知県・徳島県のいずれかの県域において、危機事象が発生した県の地方連合に対し応援を実施する。



社会貢献の取り組み

◇連合「愛のカンパ」



■「連合・愛のカンパ」に取り組み、連合本部、各産別との連携により内外のボランティア・NPO 団体等への支援とともに、自然災害等による被災者に対する救援・支援を進めている。地域助成については、連合鳥取の推薦があること等、応募対象・資格要件があり、連合組合員およびその家族、あるいは連合組合員 OB・OG が、運営に参加している NGO・NPO 等の事業・プログラム、または地方連合会が日常的な活動で連携している NGO・NPO 等の事業・プログラムが対象となる。

2023 年度支援決定対象団体は、①米子市「全日本 Challenged アクアスロン皆生大会実行委員会」、②鳥取市「鳥取さわやか車いす & 湖山池マラソン大会実行委員会」の2団体。

（交付期間3年のうち①は期間満了、②が最終年）

※地域助成の公募受付中。（2024年3月31日締切）

◇メーデー大会とリンクした取り組み

- （例）メーデー献血、フードドライブ、清掃活動、観光・商業施設のにぎわい創出、フリーマーケットチャリティー等

◇「子ども食堂」への支援

- 子どもの貧困対策として、「子ども食堂」への支援を検討する。



国際交流の取り組み

◇中国・吉林省総工会との交流

- 中国吉林省総工会との友好交流は、新型コロナウイルス感染症が収束後、新たに「相互友好交流協定」を締結し交流の再開に向け調整中。

（2021、2022年、2023年度度延期）

※中国吉林省総工会との相互友好交流協定（2015年6月再締結。期間：5年間）に従い、民間レベルの交流促進を図る観点から、中国吉林省総工会との友好交流に取り組む。



SDGs（国連・持続可能な開発目標）啓発の取り組み

◇SDGsの取り組み

- ディーセント・ワーク（働きがいのある人間らしい仕事）世界行動デー（10月7日）に向けた普及拡大の取り組みと併せ、SDGsに関連付けた連合本部発行物（「連合白書」「春季生活闘争アクションリーフ」等）を活用し啓発を行う。



- JILAF（公益財団法人国際労働財団）による、開発途上国の建設的な労働運動の確立を通じて、当該国経済・社会の発展に寄与する国際交流事業を推進するため、ラオスの労働組合関係者とWebによる交流を実施した。

※JILAF 招へいオンラインプログラムによる交流会（2022年12月8日）